

シンポジウム

「神宮の森と東京オリンピック2020を考える」

東京の誇りとする珠玉の森とオリンピックの調和をめざして

水と緑の東京へ【渋谷川・玉川上水余水吐けの再生】

- 主催：日本学術会議環境学委員会 都市と自然と環境分科会
日時：平成27年2月20日（金）13:30～17:00
場所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7丁目22-34）
後援：（公社）日本造園学会、（一社）水文・水資源学会、（公社）日本都市計画学会、
（公社）土木学会、（一社）日本建築学会、（一社）環境情報科学センター、
（NPO）日本都市計画家協会

第一部：東京の遺産としての神宮の森とオリンピック2020（13:30-14:55）

- あいさつ 村上暁信（筑波大学システム情報系准教授）
東京オリンピック1964は、何を目指し、何を残したのか。
池邊このみ（千葉大学大学院園芸学研究科教授）
明治神宮内苑・外苑の歴史的意義と現代的意義
進士五十八（東京農業大学名誉教授）
「水都東京」の構造と課題
池田駿介（東京工業大学名誉教授）
東京のサウンドスケープの過去・現在・未来
鳥越けい子（青山学院大学総合文化政策学部教授）
新国立競技場（計画案）の緑地・熱・風環境のシミュレーション
高橋桂子（独立行政法人 海洋研究開発機構地球情報基盤センター長）
松田景吾、大西領（独立行政法人 海洋研究開発機構地球情報基盤センター）

【休憩】

第二部：水循環基本法の理念と東京（15:15-15:35）

- 水循環基本法の理念と東京
山田正（中央大学理工学部教授）

第三部：報告と提案（15:35-15:55）

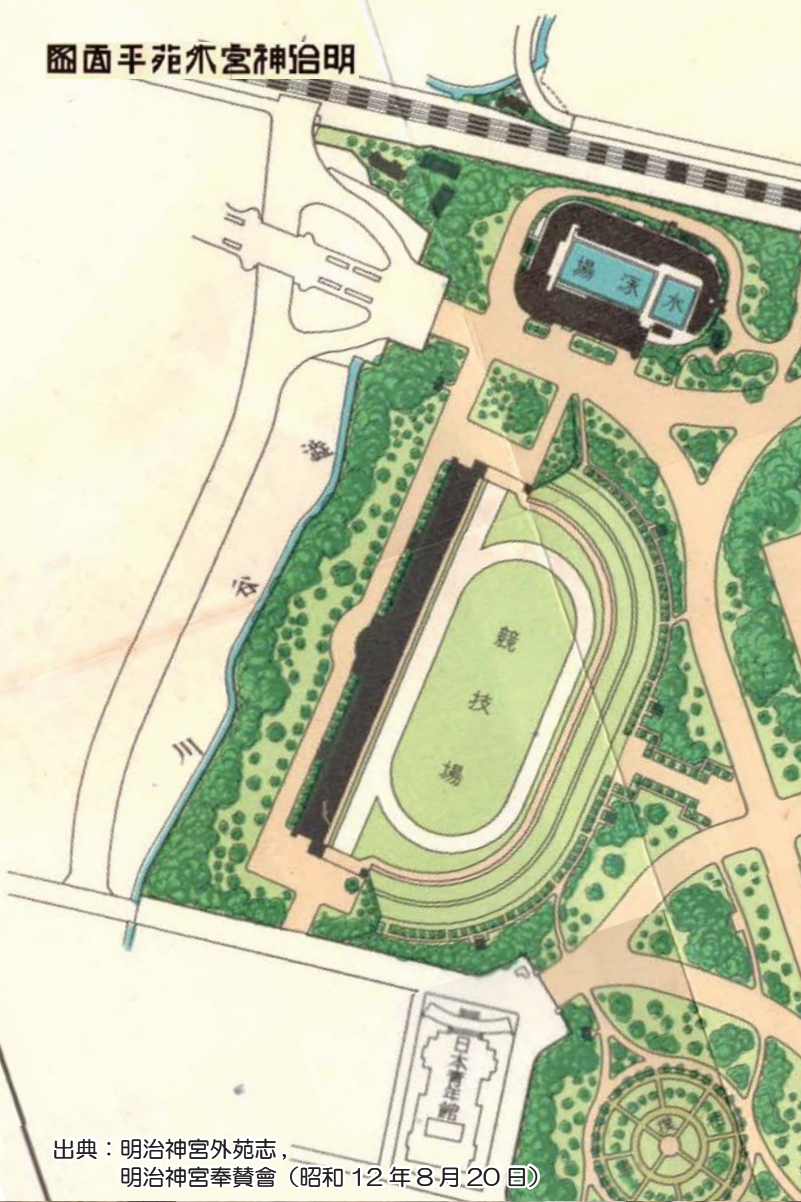
- 現状報告と神宮の森ヴィジョン
石川幹子（日本学術会議環境学委員会 都市と自然と環境分科会 委員長）
（中央大学理工学部教授、東京大学名誉教授）

第四部：総合討論（15:55-16:55）

- 都市遺産の継承と再生
コーディネーター 進士五十八
パネリスト 池邊このみ、池田駿介、鳥越けい子、村上暁信、高橋桂子、山田正、石川幹子
おわりに 稲村哲也（放送大学教授）

<申し込み方法・連絡先>

お申し込みは、中央大学 理工学部 都市環境学科 山田研究室（Mail：hyd-lab@civil.chuo-u.ac.jp）にメールでお申し込み下さい。
シンポジウムに関するお問い合わせは、中央大学 理工学部 人間総合理工学科 環境デザイン研究室（TEL・FAX：03-3817-7268）
にご連絡下さい。



出典：明治神宮外苑志，
明治神宮奉賛會（昭和12年8月20日）



1975年の国立競技場周辺空中写真
渋谷川は暗渠化されている。
出典：国土地理院

開催趣旨

現在、神宮の森・外苑において東京オリンピックに向け、新国立競技場の建設が進められている。巨大な競技場の建設をめぐる間は、この間、多くの議論が行われてきた。当該地域は、すぐれた景観を守り育てるためつくりだされた風致地区の第一号指定地であり、大正年間より約100年の歳月をかけ風致の維持継承が行われてきた。また、玉川上水の余水吐け（四谷大木戸より分水、渋谷川に連なる）が存在している。新国立競技場の建設にあたっては、この風致地区の理念を踏まえて「周辺の景観に配慮する」ことが明文化されている。

このシンポジウムは、このような背景を踏まえて、現行案を前提とし、叡智を結集することにより、東京が誇りとする次世代の森と水循環を再生し、2020年に予定されているオリンピックが「国民が誇りを持って」迎えることができるよう、広範な論議を行うことを目的とする。これは、オリンピック終了後、当該地区が、新たな東京の水と緑の資産となるヴィジョンの提示をも視野にいれたものである。

ここでは、まず、東京の都市遺産としての水と緑の構造、現行案が施工された場合の緑地・風・熱環境の変化（地球シミュレーター分析）の考察、水循環基本法の理念に照らした問題点と課題等を明らかにする。これを踏まえて、水と緑の再生に向けた、東京の遺産としての神宮の森と、2020オリンピックの創造的調和に向けた具体的提言を目指すものである。